

2023年11月1日 『朝礼時講話～報告事項』

(1) 講話概略【仏教の精神に触れて他者から学ぶ】

今月11月28日に、浄土真宗の開祖・親鸞聖人のご命日を迎えます。このご命日に関わるご法要として、報恩講やお取越しといったご仏事が全国のお寺や一般家庭等でも開かれています。

親鸞聖人は、お釈迦様の教えを実直に、謙虚に自分自身に引きあて、生涯、自己に問い聴きながら歩まれた人です。お釈迦様の有名な言葉があります。

『天上天下唯我独尊』

釈尊がお生まれになり歩かれるようになられてから東西南北それぞれに七歩ずつ歩き、天と地を指差しながらおっしゃったとされる言葉。私訳ですが、このような内容となります。

「全宇宙の法則の元では上も下もなく、我はただひとり尊きものである。」

誰もが対等であり、平等であるという考えが基本の「き」となりますが、一般的に言われる上下関係がないという単純な考え方ではありません。一切のものとも比べる必要のない唯一無二の存在(あなた)であるという、仏教の真髄を表した言葉。お釈迦様自身だけに向けた言葉ではなく、生きとし生けるものが「あるがまま尊い」と示した言葉です。

また、チベット仏教の中には、

『弟子の準備が整えば師が現れる』

という言葉があります。弟子とは、私自身のこと。私が謙虚に、どんな人からも学ぼうとする心さえあれば、誰もが私の師匠に成り得るというもの。それは、一般的な世間の先生と呼ばれる存在だけでなく、時にそれが子どもかも知れませんが、体験そのものを師と表現することだってできるでしょう。であるならば、苦い経験も悲しい別れも、師が与えて下さったものに成り得るかも知れません。

親鸞聖人は、生涯、

『親鸞は弟子一人ももたず候』

という精神で生き抜かれた方です。よき師やよき友に囲まれ、愚かな自己を常に自覚し探求しながら歩まれたご生涯でありました。

私たち光寿会においても、苑長だからとかパートさんだからとか関係なく、年齢の上下関係なく、相手から謙虚に学ぶ姿勢で始められたら、見える世界も違ってくるかも知れません。中々いつもこのような心構えを持続するのは難しいことですが、こういう普段と違う時間を持てる場から、毎回始めてみるのも良いかもしれませんね。今月も宜しくお願い致します。



(2) 連絡事項について

- ① 本日、ショートステイは2名の方が入居予定です。退居になる方は1名です。
- ② 本日の対面の面会は3名です。T. Tさんは入居手続き前にご家族の面会です。M. Tさんは病院から退院後にご家族と面会となります。K. Iさんは午後からご家族の面会があります。
- ③ M. Tさんが午後から自宅外出となります。2時間滞在の予定です。
- ④ 職員のストレスチェックを行います。各自、宜しくお願い致します。
- ⑤ 10月25日付の主任者会議録を配布致します。光寿苑報恩講等の詳細が記載されています。
- ⑥ 今月いっぱい看護師Fさんが退職となります。在職の間、実に謙虚に、相手や状況から学び取る姿はいつも感心しておりました。また、経験を活かし、時には厳しく、そしてその後は温かく包み込んで下さる姿勢はとても尊く、私もそのような人に成りたいと思った人の1人でした。残り1ヵ月間、大事な時間を共にしましょう。
また、今日から看護師Sさんが来て下さいました。これから宜しくお願い致します。

【講話+⑤～⑥=理事長 ①=生活相談員 ②③=生活課長 ④=事務課長】